

# 弓削商船高等専門学校 第5回運営諮問会議報告書

平成21年3月

## は じ め に

独立行政法人化した平成16年度、教育研究の質を一層向上させるための外部有識者による評価組織として運営諮問会議を設置いたしました。本年度は3月5日に第5回運営諮問会議を開催しましたので、その内容をまとめたものを公表いたします。

第1回会議では、「本校の特徴を活かした個性的教育の進め方について」「本校に適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善について」、第2回会議では「本校の社会貢献について」「専攻科の発足と内容の充実に向けて」、第3回会議では「学生指導について」「学生寮の運営について」、第4回会議では「地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元」「専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用」を諮問し、委員の方々からは貴重なご提言をいただきました。

今回の第5回会議では、第4回会議でのご提言に対する対応状況を説明した後、「入試業務に関すること」と「学内施設の効率的な運営方法」の2項目について諮問いたしました。

「入試業務に関すること」では、学生募集、試験問題の作成ミスの防止、重要書類の安全な保管方法についての3点が本校では、特に重要であると考えています。

また「学内施設の効率的な運営方法」ですが、保健室と図書館の今後一層の効率的な運営方法を検討していく必要があると考えています。

会議では、2つの諮問事項に対して、それぞれの委員の立場から大変有益なご提言をいただきました。今回いただきましたご提言は、本校の教育研究活動の改善に役立てていく所存であります。

最後に、ご多忙中にもかかわらず、本校の発展のためご助言をいただきました、西田委員長をはじめ運営諮問委員の方々に厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

弓削商船高等専門学校長

落合 敏邦

## 目 次

1. 第4回運営諮問会議の提言 .....	1
2. 提言に対する本校の対応 .....	1
3. 第5回運営諮問会議諮問事項 .....	2
4. 審議内容 .....	4
5. 提言 .....	5



## 1. 第4回運営諮問会議の提言

前回（平成20年1月29日開催）の会議において、2項目の諮問事項に対して、下記のとおり提言を行った。

### （1）地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元

○技術振興会の活動に学生、特に専攻科生が参加できる機会を作る。

### （2）専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用

○インターンシップの目的を明確にするため、インターンシップ基準書を作成する

○商船系専攻科生に社船等の乗船体験を行うことを勧める

## 2. 提言に対する本校の対応

第4回会議の提言に対する学校の対応として、以下のことを確認した。これらのことは今後も継続して努力されることを希望する。

### （1）地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元

#### ①パネルフォーラム

専攻科生の研究の充実、教員の研究水準の向上、及び専攻科生と教員の研究内容を弓削島を取り巻く地域の住民や企業等へ紹介する目的で、11月8日（土）と9日（日）の2日間、本校の第1会議室において「第4回パネルフォーラム」を開催した。今年度も過去3回と同様に専攻科生の研究内容の発表に重点を置き、専攻科生全員にパネルの展示を求めた。展示パネル総数は商船学科6テーマ、電子機械工学科20テーマ、情報工学科9テーマ、総合教育科3テーマの合計38テーマであった。

#### ②技術振興会主催の技術講習会

平成19年度に実施した「有限要素法セミナー」に加えて、平成20年度は基礎力学の講習も実施した。講習会にはティーチングアシスタント（以下TAと称する）として延べ14名の専攻科生と4名の本科生が参加し、本技術講習会が学生の勉学及び研究に対する姿勢に対して少なからず影響を与えたようである。

・講習会名：弾塑性力学の活用に向けて～材料の弾塑性変形，弾塑性力学の基礎～

TAとして専攻科2年生1名、1年生3名が参加した。

・講習会名：有限要素法基礎セミナー

TAとして専攻科2年生3名、1年生2名、本科5年生2名が参加した。

・講習会名：有限要素法応用セミナー

TAとして専攻科2年生3名、1年生2名、本科5年生2名が参加した。

### ③技術振興会主催の講演会

今年度は、本校教員の船舶・海洋に関する研究紹介、外部講師によるロボットに関する内容の講演を開催した。

#### ア 本校教員の講演

・演題：「プロペラ，FRP船体及び漁網への特殊塗装実験の成果ならびに海中付着生物フジツボについて」

・演題：「中速ギヤードディーゼル機関の燃焼解析技術の開発」

海上輸送システム専攻科生を中心に8名が参加した。海洋に関する講演に海上輸送システム専攻科生は興味を示していた。

#### イ 外部講師の講演

・演題：「人間に優しいロボットの今日と明日」

講師：愛媛大学大学院理工学研究科 生産環境工学専攻 機械工学コース 助教 山本智規

・演題：「人に優しいロボットの今日と明日」

講師：愛媛大学大学院理工学研究科 生産環境工学専攻 機械工学コース 准教授 柴田論

### ④四国6高専産学官交流会

本年度は本校が主幹校となり、平成20年8月4日（月）に今治地域地場産業振興センターで実施され、パネル展示で海上輸送システム工学専攻生が発表した。専門外の参加者にも理解できるような分かり易いパネルの制作や説明の難しさを経験したようである。

## (2) 専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用

### ①専攻科におけるインターンシップ

本校に専攻科が設置され4年目を迎え、既に2期生が修了した。専攻科教育の特徴は、より実践的で高度な実務を遂行できる技術者を育成することであり、「長期インターンシップ」による実務に即した教育は、本諮問会議の提言にあるように、大変意義のあることであると考えられる。平成21年度には、カリキュラムの改訂を検討する予定で、「長期インターンシップ」を正規の科目に組み入れたいと考えている。具体的には、15日間の「長期インターンシップ」で2単位分の単位認定が可能である。そこで、「長期インターンシップ」を実施するにあたり、本校の技術振興会の会員企業に対して「インターンシップ受け入れ」に関するアンケート調査を実施した。「長期インターンシップ」の受け入れについて可能性のある企業数は、「今後検討する」と回答した企業を含めると18社あり、インターンシップを実施することは可能であると考えられる。今後は、インターンシップの実施に向けて、単位の認定方法、宿舎や通勤方法、経費などについて詳細に検討する予定である。

### ②専攻科における弓削丸の活用

現在、専攻科では、単位化はしていないが、プレゼンテーション能力やリーダーシップ力の向上をはかるため、専攻科生を本科生の実験実習のTAとして配置し、本科生の教育支援に参加させている。昨年度の運営諮問会議で、「商船系専攻科生においても、社船等の乗船体験を行うことを勧める。」と提言を受けていたのであるが、現状はまだ対応できていない状況である。海上輸送システム工学専攻においては、既に本科生の航海実習のインストラクターのTAや弓削丸を利用した各種イベント（一日船長やボランティア体験航海など）にスタッフとして積極的に参加している。専攻科における弓削丸の活用をより活発化するためには、TAを単位認定するよう（例えばインターンシップと同等の扱いをするなど）検討する予定である。

## (3) 上記対応の意見

「地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元」については、技術講習等、それぞれ成果が上がっているという感じを受けた。

成果については、成果集にして関係者へ配付することが大事である。

講習会については、もう少し一般向けのテーマを選んだらどうか。また、どういう人をターゲットにして、こういう企画をしたのか。小中学校の生徒などに夢を持たせるのか、専門家なのかで大きな違いが出る。小学生あたりは非常に喜んでいようである。それなら、そのような企画が必要ではないかと感じた。今後はこれらの点に注意して一層努力を願いたい。

「専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用」については、インターンシップは現場での即戦力の最も近い道ではないかと思う。また、学校も、今まで2年かかって教えていたものを1年で教えるためには、インターンシップを上手く取り入れるなどして、どういう風に教えたらよいかを考えていただき、さらに努力を願いたい。

## 3. 第5回運営諮問会議諮問事項

平成21年3月5日(木)開催の第5回運営諮問会議において、諮問された事項は以下のとおりである。

### (1) 入試業務に関すること

#### ①学生募集について

##### ○現状

志願者の確保は、本校の最重要課題として、オープンカレッジ(夏季休暇中の2日間)、中学校への個別訪問(280校)、学校説明会の開催(10月)、中学校主催学校説明会への参加(23校)、弓削丸によるPR(体験航海)など、全教職員が様々な活動を展開して鋭意努力している。本年度の学生募集活動の特徴は、特に工業系学科の志願者数増加を視野に入れて、近隣からは工業系学科、遠方からは商船学科の志願者数増加に向けてPR地域を住み分けし、各学科が責任をもってPR活動に臨んだことにある。

##### ○今後の課題

平成21年度の入試状況は、様々な要因で期待した成果が現れなかった。PR地域を住み分けしたこと、及び教員が学校訪問した際、自分の所属学科以外の学科についての説明が十分でなかったことが一要因と思われる。

##### ○諮問事項

反省点を踏まえ、平成20年度から実施したPR地域の住み分け方策の是非、及び全教員が3学科のPRを的確に行うための具体的な対策について、ご教示願いたい。

## ②試験問題の作成ミスの防止について

### ○現状

高専の学力入試は高専機構で作成された統一問題(英・国・数)で実施されている。事前に配布される試験問題の管理が大切な課題である。一方、編入学試験や学力入試の予備問題は、各校で独自に作成することになっている。本校は、関係科目担当教員から選定した試験問題作成員が責任をもって作成し、完成した試験問題は入試委員会(学生課)が厳重に保管している。

### ○今後の課題

試験問題の作成は、内容の守秘と教員数の観点から、試験科目に対して数名のみが関わっている。そのために問題内容の確認は第三者のチェックに頼ることができず、本校の現状にあった適当な問題作成ミス防止の対策が必要になっている。

### ○諮問事項

試験問題の作成ミスを防止するために、チェックリスト等を整えたのでご意見を戴きたい。また、他に有効な作成ミス防止策があればご教示願いたい。

## ③重要書類の安全な保管方法について

### ○現状

入試問題や調査書等の重要書類は、学内保管室内の金庫に保管している。金庫のキーと解除番号は職員2人でそれぞれが管理し、試験当日まで盗難等に備えている。

### ○今後の課題

本年度の高専機構監事監査において、さらに確実な入試問題の保管方法を取り入れるように指摘された。

### ○諮問事項

機械システムによる警備装置を設置した。関係機関の重要書類の保管状況と比較して、改善点があればご教示願いたい。

## (2) 学内施設の効率的な運営方法

### ①保健室

#### ○現状

本校は、保健室に看護師(1名)を配置し、学生の健康面でのケアを行うとともに、補助相談員としてメンタル面でも相談に対応している。相談を受けた看護師は、受けた相談内容については、毎週カウンセラー(非常勤)に報告し、助言を受け学生に対応している。

保健室にメンタル面で相談に来る学生には、学級担任教員や学生相談室で相談できない学生又は学生相談室に行けない学生がおり、保健室(看護師)は重要な役割を負っている。

#### ○今後の課題

上記のように、学生にとってメンタル面において相談しやすい体制を取ることが必要である。看護師とカウンセラーとの間の報告・助言の体制は、比較的スムーズに行われているが、看護師と学級担任との連携は、相談学生の諸事情により困難な場面も多く認められる。

#### ○諮問事項

より良い相談体制をとるための学級担任と看護師との連携方策についてご教示願いたい。

## ②図書館

### ○現状

図書館は図書館長(教員)、事務職員3名(内パート1名)が配置されており、事務職員は図書館業務に加えて、広報及び情報の業務も兼務している。

また、図書館には、図書の選定、予算その他図書館の運営に関することを審議するため図書委員会を設置し、年3回程度開催している。

加えて、各クラスに図書委員(学生)を配置し、図書館だよりの配布、返却図書の督促等、図書館と学生間の連絡調整を行っている。

以上のように、図書館教職員、図書委員会、学生の図書委員とも、一般的な図書館業務を行う体制は整えているが、一般学生を対象として、図書に興味を抱かせるような体制が、充分図られている状況ではない。

なお、経費削減等の理由から、図書館は昨年度まで平日8時30分から19時まで、土・日の8時30分から16時30分まで開館していたが、本年度からは平日8時30分から18時までと土・日10時から16時までの開館とし、全体として開館時間を短縮した。

上記のような状況下で、図書館の利用者が年々減少する状況にある。

#### ○今後の課題

現行の図書館組織のもとで、より効果的な図書館の利用促進を図る必要があると思われる。

#### ○諮問事項

今後、教職員及び学生の連携を密にし、図書館利用の促進を図りたいが、どのような施策が考えられるかご教示願いたい。

## 4. 審議内容

### 【第5回運営諮問会議諮問事項について】

#### (1) 入試業務に関すること

##### ① 学生募集について

・高校回りとか、各地区を回っているのを、最低2, 3人で回り、商船学科の先生と、非商船の先生とが、ペアになる。できれば、先生方と一緒に学生も行く。

・この学校を出ると、どんな資格が取れるとか、どういう貢献を社会にしているか、専攻科を修了すると4年制大学卒業と一緒に資格であるとか、これだけの施設があるということ、大いにアピールしたらよいのではないかと。

・同窓会、後援会が何ができるのか、学校側で検討して、「こういうことをしてください」と言ってほしい。同窓会、技術振興会、後援会、PTAの組織を生かして、より一層学生募集に励んでいただきたい。

・しまなみは工業系を採っていききたいとの話があったが、この今治近辺でいえば、新居浜高専、今治工業があり、工業系をその辺りで選択する場合、地域性とか、いろいろアピール等はあると思うが、実際こういうことが他の工業系とは違うということをしかりとアピールすることが必要だと思う。

・私立高校では、パンフレットで強調するところを再三再四言ってくる。小規模の学校にも、1つの高校から3回ぐらい来た。私立や商船高専というのは、特化しているだけに、特色を出しているところは、十分あるのではないかと。

・学校PRに行ったところでは、全学科がきちんと説明ができるようにしなければいけないのではないかと。また、行く場合、質問予想を作り、準備をしてから、卒業生の就職の状況、優れた環境のところ、勉強ができる等、上手くPRして、学生をきちんと集めるということが大事ではないかと思う。

・10倍も超すような求人がある立派な学校ですよということをPRする。

・ホームページをみたが、具体的に進路先が出ていない学科があった。

・入試倍率は、最低2倍のラインは守ってもらいたい。入学定員は、絶対に確保しないといけない。

・理科教室などを通して、地道に地元の子供とその保護者に直接接していく必要もある。(委員より文書にて回答)

・法人なので、授業料免除、返還の必要ない奨学

金など、経済的な援助・優遇策を独自に策定してもいいのでは。(委員より文書にて回答)

##### ② 試験問題の作成ミスの防止について

・入試業務というのは、誰もがやりたくない。しかし、事が起こったとき、責任者と幹部は、速やかに集まって、対策を協議して、公平に処理することが必要である。

・平成21年度から、新しい学習指導要領の移行期に入ってくるので、その辺りへの対応も考えて入試問題等を作っていかなければいけないのではないかと。

・問題作成を、学校内で、この部屋でしなさいということにしているのか、それとも、この期間の間に作成しなさいと、問題をUSBメモリー等に入れて持って帰ることがあるのか。入学ということで、作成する問題については特に留意しないとイケない。

・問題作成者、教務主任以外のメンバー(少数2人程度)からなる試験問題のチェックシステムを作る。(委員より文書にて回答)

・各学科の専門教育担当者が作問してもいいのではないかと。(委員より文書にて回答)

##### ③ 重要書類の安全な保管方法について

・重要書類の保管場所とセキュリティーシステムを見学した。

#### (2) 学内施設の効率的な運営方法

##### ① 保健室

・問題を抱える学生に対応するのは最も適した人材が当たるのが良いが、学級担任は学生一人ひとりの状況を把握しておく必要があると思う。家庭との連絡などは学級担任の仕事だと思われるが、現在は誰が行っているのか。急を要する事態になったときなどの対応策も必要で、個人情報の保護との兼ね合いで柔軟に対応すべきだと思われる。

・いろいろな症状、疾患を持っている人もいて、表に出しにくい部分もある。しかし、周囲が注意する意味において、情報共有することが大事である。

・はしかについて、保護者の方に、2回の予防接種をお願いし、成績表などと一緒にお知らせしているとのことであるが、はしかが発症すると、全体の学事予定が狂ってしまうので、保護者の方に連絡を取って勧めてもらいたい。

##### ② 図書館

・学生が図書館へ行って、何か調べないといけな

いような状況にしないと、今の学生は、小学校のときからあまり本を読むという習慣がついていないので、読んでくれない。

・実験実習のレポート等で課題を出して、参考図書を挙げて、その本を読ませるといような工夫をしたらよいのではないかと。

・平均して2, 3冊年間に学生に貸し出すのは、ちょっと少ない。

・1920, 30年代の本等があったので、予算等もあるだろうが、新しい本に持っていかないと、現代と全然マッチしないのではないかと。そういう意味で、アンケートを学生に取り、どういう傾向の本がいいか、専門誌がいいか、あるいは一般の小説がいいか聞くのも一つの方法ではないかと。



## 5. 提言

第4回会議の提言に対しては、これからも教育研究活動の改善に努力し、さらに発展されることを期待している。

なお、今回の諮問事項に対しては以下のとおり提言する。

### (1) 入試業務に関すること

学校PRは、同窓会、技術振興会、後援会、PTAの組織を活かして、学生募集に励んでいただきたい。

学校PRに行く際は、ある程度質問予想のようなものを作り、準備をし、全学科の説明がきちんとしてできるようにすることを提案します。

卒業生の就職状況や、こういう優れた環境のところで勉強ができること等を上手くPRすることを提案します。

パンフレットでここを強調するといところ

を何度も言ってきたり、1つの高校から3回ぐらい来たりと、PR活動を行っている学校もあるので、商船高専は、特化しているだけに、より一層アピールすることを提案します。

また、入試業務で事が起こったとき、責任者と学校の幹部は、速やかに集まって、対策を協議して、公平に処理することを提案します。

### (2) 学内施設の効率的な運営方法

#### ①保健室

問題を抱える学生に対応するのは最も適した人材が当たるのが良いが、学級担任は学生一人ひとりの状況を把握しておく必要があると思います。家庭との連絡などは学級担任の仕事だと思われかもしれませんが、現在は誰が行っているのか。急を要する事態になったときなどの対応策も必要で、個人情報保護との兼ね合いで柔軟に対応できるようにしていただくことを提案します。

#### ②図書館

講義や実験実習を実施するに当たり、学生が図書館へ行って、何か調べないといけないような状況にすることを提案します。

また、予算等もあるでしょうが、新しい本も入れないと、現代とマッチしないのではないのでしょうか。そういった意味で、アンケートを学生に取り、どういった種類の本が良いか調べることを提案します。

平成21年3月

運営諮問会議

委員長 国立大学法人神戸大学名誉教授

西田修身

委員 上島町長

上村俊之

〃 今治市立宮窪中学校長

渡邊志朗

〃 弓削商船高専同窓会長

小田原照明

(株)新光海運取締役相談役

〃 (財)えひめ産業振興財団専務理事

若原隆

〃 愛媛県立医療技術大学教授

岡田真理子

〃 因島商工会議所会頭

村上祐司





---

独立行政法人国立高等専門学校機構 **弓削商船高等専門学校**

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000

TEL (0897) 77-4613 (企画広報室)

ホームページ <http://www.yuge.ac.jp>

---